小学生・中学生の皆さんへ
あらかわ区報Jr.（ジュニア）
ARAKAWA KUHO JUNIOR
2019年［令和元年］
12.18
No.129

発行：荒川区
発行部数：23,000部
〒116-8501
荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111

あらかわ区報Jr.は
荒川区ホームページで
ご覧になれます
https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html

バリアフリーについてデータ収集

フィールドワークから見えたあらかわ

第一中学校と第三中学校のジュニア記者が、障がい者の視点に立ち、車いすを使ってあらかわのまちで、中学生目線でデータ収集を開始。一体、何のために？　何の役に立つの？　そこで、一中・三中のジュニア記者たちに南千住にある東京都立産業技術高等専門学校に集まってもらい、これまでの活動を通して気付いた事や現在の心境を聞きました。みんな、どんな気付きがあったのか？　そして、ジュニア記者たちの活動はどんなことに生かされているのかに迫ります。

問合せ　東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス　☎(3801)0145

次は1月に発行する予定です

車いすに乗って、いつものまちを移動したら、さまざまなことに気付きました。

今回は、第一中学校１年生と第三中学校２年生のジュニア記者たちが、東京都立産業技術高等専門学校の生方俊典先生と一緒にフィールドワークを行いました。

フィールドワークとは、学校の外などでさまざまな調査をして、データを集めることです。実際に車いすに乗ってあらかわのバリアフリーについて調べてみると、普段の生活では意識していなかった危険や工夫がたくさん見えてきました。

バリアフリーとは、障がい者や高齢者が社会に参加する上での「障がい(バリア)を無くす(フリー)」こと。建物や道路ばかりでなく、すべての障壁を取り除くことを意味します。

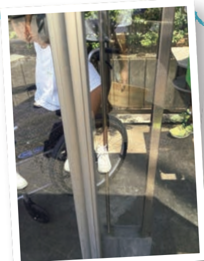
一中生 ＆ 三中生 フィールドワーク報告書

あらかわのまちを車いすで移動しました

まちに出る前に、東京都立産業技術高等専門学校の校内で、車いすの使い方を練習しました。普段はゆるやかに見えるスロープや小さな段差も、車いすだとなかなか乗り越えられません。介助をする時に気を付けるポイントも生徒同士で話し合いました。

そして、いよいよフィールドワークへ！　自分たちが通う中学校の周辺エリアを調査。ジュニア記者が通う中学校と東京都立産業技術高等専門学校があるエリアはバリアフリー化が進んでいて、車いすでも移動しやすい場所がたくさんありました。

▲▶歩道、公園、踏切などを車いすで通ると、今までは気付かなかった発見がたくさんありました。都電荒川線の線路は車いすでも乗り越えやすい段差になっています



▲▶車いすに乗って、介助なしで電話ボックスと自動販売機を利用してみました。低い位置に商品の選択のボタンがある自動販売機は、車いすでは手が届かない高さの商品も買うことができます

車いすに乗って気付いたこと

車いすのまま利用できる公園の水飲み場、方向転換ができる広い電話ボックス、低い位置に選択ボタンが設置された自動販売機など、まちのあらゆるところでバリアフリー化は進んでいました。その一方で、手動ドアが残る古い建物や神社へ続く階段、一見平坦に見えても実はゆるやかな坂になっている歩道など、まだまだ車いすでは利用しづらい場所があることも分かりました。車いすだけでなく、体が不自由な人やベビーカーを押す人にとっても不便だと感じました。

生方俊典先生と一中生&三中生 座談会

生方俊典先生

フィールドワークを通して大変だったことや、ジュニア記者たちがバリアフリーについて感じたことを話し合いました！

車いすに乗って初めて分かったバリアフリーの大切さ

先生　皆さんは、これまでバリアフリーを意識したことはありましたか。

三中　小学校の授業で習った点字ブロックは知っていたけど、生活の中で気にしたことはなかったです。実際に車いすに乗ってみて不便さや大変さが分かって、良かったと思います。

一中　私たちが通う中学校は、東京都人権尊重教育推進校なので、車いすのバスケットボール選手が講演会をしてくださったこともあります。でも、バリアフリーについては詳しく知りませんでした。

まちにはまだまだ危険がたくさん 自分たちにできることは？

先生　フィールドワークは初めてだったと思いますが、何か発見はありましたか。

三中　車いすに乗るのも、介助をするのも大変でした。車いすを押すのにこんなに力が必要だとは思いませんでした。小さな溝でもタイヤが止まるし、狭い道だと歩行者とぶつかったりするので、気を付けないと危険だと思いました。

一中　車いすで坂道を下るのも怖かったです。このまま加速して止まらなくなったらどうしようって思いました。

三中　日常的に車いすに乗っている人をまちで見かけたら、何か手伝えることはないかなと考えるきっかけになりました。

一中　車いすを介助する人の大変さも分かりました。力も必要だし、いろいろなことに気を遣ったり目を配らないといけないからです。

先生　皆さんの視点はすばらしいです。大人になった時にその知識を生かして、誰もが生活しやすいまちづくりに役立ててほしいと思います。

▼防災活動に役立てるため防災部員が参加した一中生

左から　徳山由真さん　榎本咲生さん　吉田希さん　小池百華さん

▼快適環境マップに興味を持ち参加した三中生

左から　太田雷良くん　秦蒼馬くん　氏家育琉くん　渡部航世くん

ジュニア記者たちが中学生目線で集めたデータは、車いす利用者向けの快適環境マップの作成に生かされています

東京2020パラリンピックに向けて、東京都立産業技術高等専門学校と荒川区教育委員会および区内の中学校が連携して、障がい者の視点に立った快適環境マップを作成しました。このマップは、調査した写真とともにフィールドワークのデータも反映されていて、スマートフォンやパソコンで見ることができます。

スマートフォンからのアクセス方法
パソコンからのアクセス方法

URL「http://goo.gl/9q1D95」を入力してください。

Topics

区立中学校防災部連合行事「釜石市等被災地訪問」報告会

9月2日、ゆいの森あらかわで区立中学校10校の防災部による「釜石市等被災地訪問」の報告会が行われました。はじめに西川区長から挨拶があり、続いて各中学校から2名の計20名が参加した、8月1・2日の二日間の被災地訪問での体験や釜石市立釜石東中学校の生徒との交流についての発表がありました。報告会の最後に、釜石東中学校で作られた合唱曲「いつかこの海をこえて」を披露すると、会場にいた保護者をはじめ多くの方から拍手が起こりました。

▲西川区長と各中学校の防災部員たち

▲被災地復興に向けての歌を参加した生徒で合唱

「日暮里道灌まつり」が開催されました

11月9日、日暮里駅前イベント広場において「日暮里道灌まつり」が開催されました。

当日は晴天に恵まれ、太田道灌ゆかりの自治体・店舗による物販や観光PRのほか、伊勢原手作り甲冑隊の寸劇や甲冑着付け体験などのイベントに、家族連れをはじめ多くの方々が来場されました。ステージでの演目披露後は、手作りの甲冑に身を包み日暮里駅周辺の太田道灌像や山吹の花一枝像周辺を練り歩きました。

▲日暮里駅周辺を練り歩く伊勢原手作り甲冑隊

令和元年度荒川区文化祭 小学生・中学生の展示俳句入賞者と作品を発表！

11月2日～4日に、令和元年度荒川区文化祭・俳句展示会（会場・町屋文化センター）が開催されました。今回入賞された、小学生と中学生の作品を紹介します（敬称略）。

小学生

特別賞

目標へ向かって走る受験生　第五峡田小学校 6年 黒田佳晏

紅葉狩り葉の落としもの道ふさぐ　第三日暮里小学校 5年 岡部柚里

優秀賞

炎天下気持ちを一つに組体操　瑞光小学校 6年 加賀稔大

かき氷友と舌だし色比べ　第三瑞光小学校 6年 山岸祐仁

しゅくだいにおいつめられてなつおわる　第六瑞光小学校 5年 石井優衣

なつやすみおうちでやすむランドセル　第二峡田小学校 2年 新垣琉生

ほたる狩り川のステージひからせて　第六日暮里小学校 4年 小川ゆり

中学生

特別賞

校庭に異彩を放つ濃紫陽花　第一中学校 3年 橋本桜佑

優秀賞

雨あがり対岸むすぶ虹の橋　第一中学校 2年 竹野花音

雨蛙のホップステップジャンプかな　第一中学校 2年 雪田翔

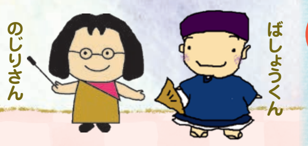
水打って客を迎える商店街　第四中学校 3年 岡鷹叶

蒼空よ鐘の音響く原爆忌　第四中学校 3年 鈴木嶺資

浴衣着て胸の高鳴る笛の音　第四中学校 1年 濱田紗良

この想いあなたにとどけ天の川　諏訪台中学校 3年 島川紗江

あらかわ今昔ものがたり〔ばしょうくんと旅する奥の細道〕



［問合せ］荒川ふるさと文化館 ☎（3807）9234

芭蕉さん越後路を行く～日本海のでっかい景色を詠む～

難所「出羽三山」と名勝「象潟」　6月に入り、芭蕉さんは、奥の細道の旅の中で最も道の険しい場所にたどり着いた。それは、旅の目的の一つだった修行の山「出羽三山」（山形県羽黒町）。気候がとても不安定な時期、山伏の衣装を着て気持ちを引き締めて「羽黒山」「月山」「湯殿山」に登ったんだって。

難所の「出羽三山」の巡礼を終え、芭蕉さんの足取りは軽くなって、楽しみにしていた日本海沿いの名所「象潟」（秋田県にかほ市）に向かった。穏やかな入江に小舟を浮かべ、大先輩の歌人・能因さんや西行さんがたどったという九十九島と呼ばれる海に浮かぶ島々や名所を巡ったんだ。干満珠寺（蚶満寺）というお寺の座敷からすだれ越しに大パノラマのような景色を眺め、いくつも俳句を詠んだんだってさ。日本海側の「象潟」は、太平洋側の「松島」（宮城県）と肩を並べるくらい美しい名勝として有名だったんだよ。

越後路で詠んだ「荒海や」の句　6月の終わりごろ、芭蕉さんの旅は「北陸道（新潟・富山・石川・福井県）」の北の端、村上藩（新潟県村上市）に入り、家老の榊原さんのお世話でお城などを見学させてもらった。この頃、ジメジメした暑さで、芭蕉さんは夏バテしてしまったと「おくのほそ道」に書かれているけど、有名な乙宝寺（胎内市）、弥彦神社（弥彦村）などにも立ち寄り、日本海を右手に見ながら南下していったんだ。

荒海や佐渡に横たふ天の河　芭蕉

夕陽が美しい出雲崎（出雲崎町）で、荒々しい日本海の波音を聞きながら、はるか遠くの佐渡島の上に架かる大きな天の川を思い描いて詠んだ句だよ。「おくのほそ道」に七夕の夜の句として掲載されているんだ。

大っきな日本海の景色と天上の星は、芭蕉さんの旅の疲れを癒してくれたことだろうね。みんなも、「荒海や」の句を詠んで、芭蕉さんが見た天の川を想像してみてね。

越後路「鼇頭奥之細道」（荒川ふるさと文化館蔵）